

第 48 回日本語教育学講座講演会

「日本人の言語行動におけるポライトネス —効率的な日本語ポライトネス指導を目指して—

講師：松村瑞子（九州大学教授）

日時：2015 年 11 月 13 日（金）14:45～16:15

場所：名古屋大学全学教育棟 4 階 406 号室

〔要旨〕：

この講演では、依頼・勧誘と断り、謝罪、褒め、不同意表明、感謝という言語行動における日本語ポライトネスについての、日本語母語話者と日本語学習者の認識の違いを明らかにした上で、これらの言語行動における日本人のポライトネスを教授するための方法について例示していく。様々の文化出身の学習者が、自らの文化の日本文化の相違と類似を認識し、日本語で丁寧な行動をとるにはどうすればよいかを自ら判断できるようになることを目指す。

国立国語研究所においては、敬語研究から発展した日本語の丁寧さに関する調査研究が行われてきた。その調査研究に基づき、『言語行動における「配慮」の諸相』（国立国語研究所 2006）では、敬語形式選択の問題にとどまらず、それぞれの言語行動場面でどのような配慮をしているかにまで範囲を広げた研究が行われた。杉戸（2005：2）によると、「配慮」とは、「コミュニケーションにおける言語使用を背後で支える各種の意識や心配り」である。日本語のポライトネスにおいては、この「配慮」が重要な要素であることは事実なのだが、日本語学習者にとっては誤解しやすい表現でもある。このことを考慮すると、日本語教育という観点からの日本語ポライトネス 研究においては、先ず日本人のポライトネスの認識と日本語学習者のポライトネスの認識の相違を明らかにすることで、誤解されやすいポライトネスに焦点をあてた研究が求められていると言える。このような事情を勘案の上、本発表では、依頼・勧誘と断り、謝罪、褒め、不平・不満・不同意表明、感謝という言語行動における日本語ポライトネスについての、日本語母語話者と日本語学習者の認識の違いを明らかにし、教授内容を特定することで、これらの言語行動における日本人のポライトネスを教授するための教育法を提示する。

問い合わせ先：日本語教育学講座 杉村泰（sugimura@lang.nagoya-u.ac.jp）